

被災地に派遣く避難所での経験く

保健師の高野園子さんは、平成23年4月2日から7日間、福島県会津美里町へ派遣され、血圧測定などの健康相談や生活状況の把握などを行いました。



中央区健康・子ども課
主査 高野 園子さん

「避難所生活は別世界。普段通りにはいかない」

震災から3週間が経過していましたが、帰宅時期がはっきりせず、皆さん大変ストレスがたまっている様子でした。

次に被災者を苦しめたのは寒さです。床にマットレスや毛布を重ねて敷いても、底冷えが厳しく、換気も不十分でしたので、非常に風邪がまん延しやすい環境でした。

また、避難所での集団生活が長期化していたので、ごみ

避難所の様子



の出し方や清掃のルールを決めたり、遮るものもない避難所ではプライバシーの問題などもありました。

役場の人に意見や要望などが数多く寄せられていましたが、役場自体が混乱しているためなかなか対応しきれない状況でした。

健康相談を受けている中で、持病の薬やこういった病気が分からないといった方たちが、高齢者を中心に多く見られました。

日ごろから病気への理解や薬局でもらえるおくすり手帳を持つという備えが必要です。

地域がやらねば！① ～宮の森大倉山地区編

体育館での避難所宿泊体験や、避難所運営ゲーム（HUG：前ページ参照）を取り入れるなど、防災対策に取り組む宮の森大倉山連合町内会防犯防火部役員の方に伺いました。

「災害に『想定内』は存在しない。

災害時に対応する柔軟な仕組みや意識を持つことが重要」

組織づくり

当地区の皆さんは、防災への関心がとても高いと感じます。しかし避難場所の位置や、防災資機材の使い方など、十分に伝わっていないこともありました。

日ごろの備えとして、これらの知識の普及や訓練・研修会の開催により、災害時の被害拡大の防止・軽減を図るため、平成23年10月に連合町内会共同自主防災本部を設立しました。



あづま かずお
阿妻 一直さん

防災意識の高まり

組織としての活動の成果もあってか、単位町内会では、各世帯に避難場所の再確認をするよう周知したり、避難時に介助が必要な高齢者などについて民生委員に把握するようお願いしたりするなど、自主的な取り組みが見られるようになっていきます。

今後に向けて

自治組織を持つマンションとの交流も不可欠です。マンションの中だけで完結する災害対策もあると思いますが、マンションから避難しなければいけないケースもありますので、一緒に対策について話し合っていきたいと考えています。

また、救援物資などを考えると企業との連携も必要だと思っています。すでに近くのコンビニエンスストアと連携している町内会もあります。

まずは「自分」

災害が起きたとき、まずは自分の身を守ることが最優先です。次に、家族の安否確認や避難場所への移動、地域の人たちと協力しながら、救助を行うことなどが求められます。

災害発生時に適切な行動をとるためにも、日ごろから地域における防災の取り組みに参加、協力してほしいと思います。



まつだ けんいちろう
松田 健一郎さん



たなか ひろみ
田中 裕美さん